長尾の里巡り　資料編

催行日　2017.3.29

☆川崎市立緑が丘霊園

　川崎市内随一の桜の名所でもあるこの霊園は墓地として利用されだしてから 70 年の歴史を数えます。この一帯は周囲を緑の雑木林で囲まれ、その台地上には耕作地が広がっていました。　緑豊かな丘陵地に作られた墓地として「緑が丘」と命名され、参道には桜を植えこんで公園墓地として運営しています。JR 南武線の津田山駅からなだらかな坂には見事な桜並木が続いています。　この桜は松戸市から昭和 28 年に運ばれたもので、樹齢 60～70 年の巨木に成長しています。ソメイヨシノを中心に枝垂桜や八重桜も加えて 600 本以上あります。そのほか園内には山桜も多くみられます。桜が開花する４月初旬には花見客が大勢訪れます。その桜の花びらが舞い散る園内は見事な桜のトンネルに代わります。
霊園一帯は鎌倉時代の武将・**稲毛三郎重成の居墨「作延城」**があったところです。坂を登った右手に**城址碑**が立っています。重成は小山田荘の領主でしたが、領地を拡大して小沢城や枡形城などの山城を多く持ち、川崎の西半分を支配した武将でした。　源頼朝の家臣・畠山重忠の父と重成の父は兄弟で、重忠と重成は従弟の間柄でした。　また重成の妻・元子は頼朝の妻・政子の実妹で、重忠とともに戦功をあげて頼朝に重用されていましたが、　頼朝亡き後　源氏は三代で滅び、妻の政子の父・北条時政に実権を握られます。　この時政に招かれて鎌倉に入った重成は命を受け、重忠の子・畠山重保を鎌倉に呼び出し謀殺を企てます。異変に驚いた畠山重忠は騎馬武者を引き連れ管谷城（埼玉県）を後にします。が途中で北条義時ら軍勢の待ち伏せに会い二俣川・鶴ヶ峰付近で戦死してしまいます。その翌日には衣笠城（横須賀市）の三浦一族が稲毛三郎重成の弟・重朝とその子供、重孝・孝重を急襲して殺害してしまいます。同じく重成は大河戸三郎に、重成の子・重正は宇佐美与一に、それぞれ館を襲われ誅殺されるという悲劇が起こります。こうして武蔵の国の七つの武士団に数えられた稲毛一族は汚名を着せられて滅亡してしまいます。重成の墓は多摩区生田の広福寺にある五輪塔と伝えられていますが供養塔だという説もあります。

☆東高根森林公園

　多摩丘陵の峰が東西の方向に長く広がる地形から「東高根」の地名が生まれたと言われています。
その多摩丘陵にある神奈川県立東高根森林公園は、川崎市内には最大の面積（2.8 ﾍｸﾀｰﾙ）を持つシラカシの原生林が残されています。樹齢は 200～300 年と推測されています。関東地方に分布するシラカシは土壌の厚い大地や丘陵に広く自生しており、ここの林はその典型でもあります。シラカシはブナ科の常緑樹であり、高さは 25M 以上にもなります。　春に開花し、晩秋には濃褐色に熟した硬い実のドングリを落とします。　このドングリを始めとする木の実や動物を狩猟して豊かに暮らしていた古代人の複合集落跡が発掘されたのは 昭和 44 年(1969)のことでした。　神奈川県住宅供給公社が集合住宅団地の造成計画を立てて、用地を買収してボーリング調査をして遺跡を発見し、本格的な発掘調査が行われました。　古代遺跡は標高 55M の台地上に

あり、三方の狭い谷と台地の北寄りの谷間には湧水が見られ、近年まで谷戸田として稲作が行われていました。この谷間から幹線道路を隔てて平瀬川へと繋がっていました。この台地上で弥生時代の後期から古墳時代に至る竪穴住居跡が６０軒余も確認され、古代集落跡の総数は２００軒を超えると推測されています。また斜面からは横穴墓群が数多く発見されています。独立した台地上にある東高根遺跡は東日本における典型的な遺跡として学術的評価も高く、本格的な調査が待たれています。

県立森林公園として開設されたのは昭和４６年（1971）、シラカシの原生林は天然記念物に指定され「ふるさとの森」として整備されました。公園の広さは 10.2㌶、遺跡のある古代芝生公園や古代植物園をはじめ、湧水を生かした自然池泉と湿性植物園、自然観察広場、花木広場、見晴らし台など公園としての見所も豊富にあります。特に湿性植物園では水辺に生えるツリフネ草やカンゾウ、コナギ、コガマなどの群落が観られ、小動物や微生物を観察することができます。またコナラ、クヌギ林の園路を結んで広場が配置され、美しい自然との触れ合いを通して古代の暮らしが偲ばれる公園として、訪れる人も年々増えています。

☆神木山（シボクザン）等覚院

「神木」の地名はヤマトタケルの伝説に始まります。院のしおりには「昔、日本武尊　東征征伐の折、疲労困憊して激しい渇きを覚えたとき、たまたま鶴の舞い降りるを見、鶴は水辺を好むものなればと、後を訪ねて冷泉を見つけて飲むや、疲労はたちまちのうちに癒えて、英気がまことに張りたりと、尊は深く神助の霊水ならんと感じ、そこに一本の木を植えたという。」代々その木を神木と崇めたり、後のその神木を以って当本尊不動明王を刻んだそうです。以上の因縁によりこの地を神木というのだそうです。この丘陵一帯は江戸時代には長尾村の一角にあり、尾根道を分岐点にして南のほうを「神木長尾」と呼び、北のほうを「河内長尾」「谷長尾」と呼んでいました。その山丘が重なり渓谷のあった緑深い地形の面影は、今もこの一帯の樹林地に残されています。
天台宗比叡山の延暦寺の末寺である等覚院は古くから「神木のお不動さん」として知られています。近年は「ツツジ寺」とも呼ばれ、山門から続く境内一杯には数百株を超すツツジが群生して、新緑の季節には見事な花園を見せて皆様を迎えています。

☆五所塚と権現台遺跡

この塚は直径４㍍高さ２㍍前後の五つの塚が南北に並んでいることから地元では古くからこう呼ばれていました。外観は古墳時代の円墳に似ていますが、実際は中・近世に村境や尾根道に築かれた 13 塚と同様の民間信仰に基づくものだと考えられています。この五所塚から長尾神社境内に続く舌状台地の平坦部は権現台遺跡と呼ばれる縄文時代中・後期の集落跡でした。昭和 33 年に実施された発掘調査では、竪穴住居跡四軒、炉跡２基、配石遺構一基が発見されました。中でも平面形が五角形という特異な形をした縄文中期の竪穴住居跡や、男根を模した二本の石棒が供えられ、

狩猟にまつわる祭りを行ったと思われる縄文後期の配石遺構は重要な発見でした。この五所塚公園の地上には中・近世の信仰が、地下には狩猟祭紀をした縄文時代の村の跡が重複しているのです。

☆長尾神社

毎年１月７日に行われる射的祭り（歩射神事）で知られています。氏子の中から選ばれた稚児二人が烏帽子・直垂を身にまとって矢を射り、的を貫くとその年は豊年とされました。境内の楠やイヌシデが見事です。

☆長尾山妙楽寺

比叡山延暦寺を本山とする天台宗の古刹です。別名を「アジサイ寺」とも呼ばれています。緑に包まれた境内には群生する約一千株のアジサイが梅雨の季節を迎えると色鮮やかに花の宴を繰り広げます。花の種類も４０種以上を数えます。鎌倉幕府の記録「吾妻鏡」には「長尾山威光寺」のことがたびたび登場します。源氏の代々の祈祷所だったと思われます。東国に源氏の勢力を定着させた頼朝が異母兄弟の阿野全成を院主として祈祷所としたとも述べられています。威光寺の歴史は古く文徳天皇の仁寿年間（851-853）に慈覚大師が自ら彫った木造の薬師仏を祀るために建てられた寺院です。さらに妙楽寺の前身が威光寺だったことは妙楽寺の薬師堂に安置されている木造の薬師如来両脇侍立像を解体修理する中でも確かめられました。

青木　2017/3/4